

2015年7月3日

私立大学図書館協会西地区部会

京都地区協議会第1回研究会(京都産業大学)

学習支援に生き残りの途を探る －大学図書館（員）のひとつの未来－

同志社大学 学習支援・教育開発センター事務長
社会学部嘱託講師「学術情報利用教育論」

井 上 真 琴

minoue@mail.doshisha.ac.jp



大学改革のなかの図書館事情

- ▶ 「これからの図書館」ではなく,
「図書館のこれから」(千葉大学:土屋俊氏 当時)
- ▶ 「これからの図書館員・司書」ではなく,
「図書館員・司書のこれから」は？

〔米国〕

- ・「今、アメリカの大学でライブラリアンと呼ばれる職業が絶滅しつつある」(石松久幸,『出版ニュース』, 2187号)
- ・(大学図書館は)巨大倉庫という不良債権



生き残り策は？

▶ “学習支援”で生き残り

→ その象徴が, **Learning Commons**

同志社大学良心館ラーニング・コモンズ



本日の内容

- I. 「学ぶ」とは何なのか
- II. アクティブ・ラーニングの潮流の中で
- III. 学習支援プログラムの展開



学習支援を考える前に

図書館は従来、情報源を貸し出したり、配信したり、契約した情報源へのアクセスを保証したりと、つねに情報源の流通、ロジスティクス（物流）を重視してきた。

今後の学術情報リテラシー教育はその視点から脱却し、届いた情報をどう利用すれば、学生の認知・思考が活性化し、学習成果を生むのかを焦点とする。

それを可能にする有力な学び（の手法）がアクティブ・ラーニングであり、アクティブ・ラーニングを取り込んだ学術情報リテラシー教育プログラムの開発が重要になる。

学生の学習行動を変える情報源の利用方法を提示し、得た情報を使って、学生が主体的に知識を創造するように導けることが、学習支援で生き残れる図書館（員）である。



I. 「学ぶ」とは何なのか

学術情報とアクティブ・ラーニングの関係

- ▶ 学術情報委員会(2013年科学技術・学術審議会, 学術分科会)
「学術情報がアクティブ・ラーニングに果たす役割を
明確にしてほしい」

従来:モノ(情報)があって,配信する【モノ重視】

今後:行動に向けて,モノ(情報)で人の「認知」を変える【コト重視】



海外調査活動でのヒアリング

ウォーリック大学, レスター大学, グラスゴーカレドニアン大学他訪問)

【英国大学PGCHEプログラム】UKPSF

行動主義, 構成主義, 社会構成主義

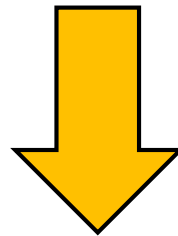
認知科学, 学習科学, 教育学の理論

※図書館員も参加して学習

“学習が先, 学びのメカニズム(理論)をまず押さえてから, 教育を考える”

学習（学ぶ）とは何か

- ▶ 日々得る情報を批判的に摂取し、新しい知識を創るために、頭の中の思考のスキーマ、インデクスを更新し、知識を再定義・再構成するプロセスそのもの。



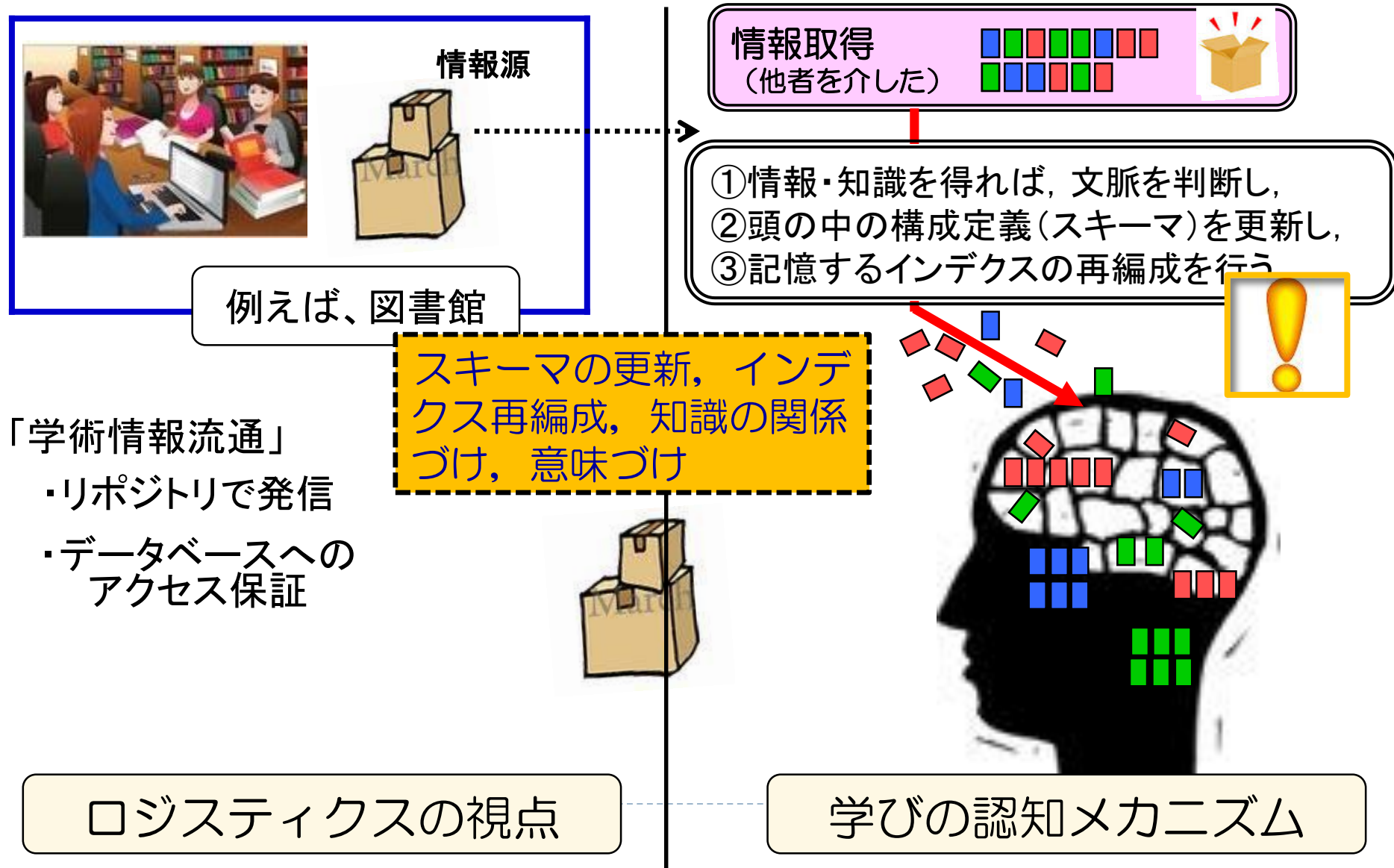
Fabulous!!

エルゼビアサイエンス ライブラリ・コネクトセミナー

- ▶ 「情報リテラシー教育」(2009. 12)

I. 「学ぶ」とは何なのか

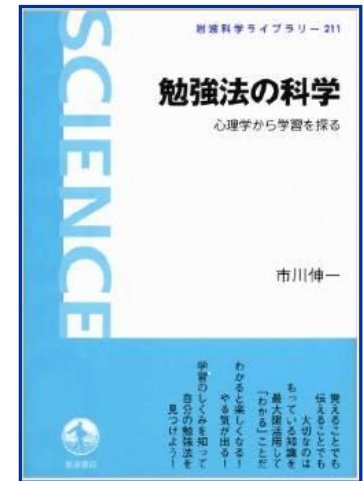
ロジスティクスでなく認知メカニズムが焦点

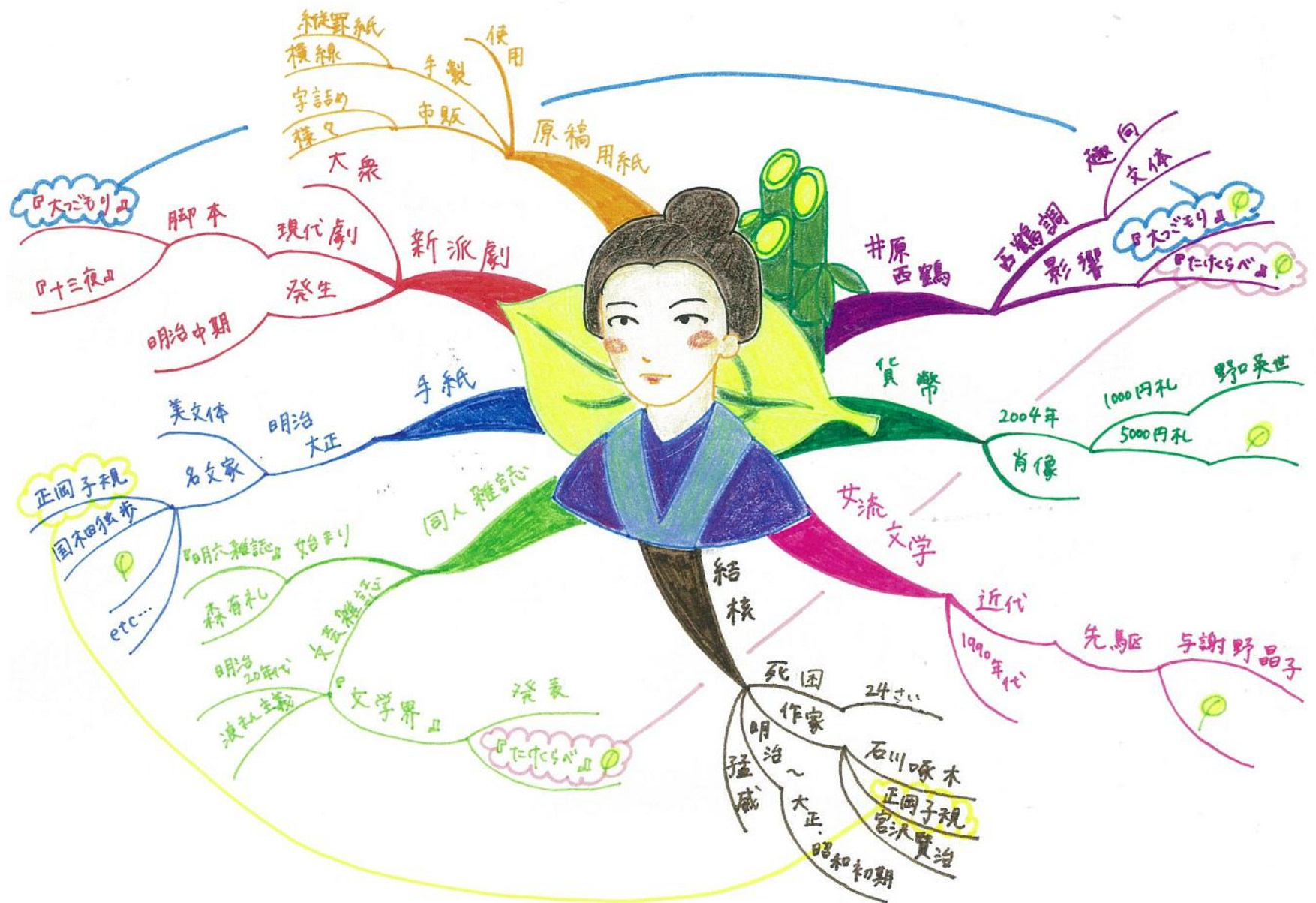


市川伸一 『勉強法の科学』

覚えること、伝えること、分かること

- ▶ [原理や法則等を]分かった人は、簡単に覚えられるし、まず忘れない。ここで大切なことは、一見ばらばらのものに、なんらかの関係を見出せば、覚えやすくなるということです。
- ▶ 物事の間関係が分かれば、わたしたちは実によく覚えることができる。ただし、それが分かるためには、知識が必要なことに注意してほしい。





アクティブ・ラーニングが言語化できない①

- ▶ アクティブであるべきなのは、学生の行動(Behavior)ではなく、認知(Cognition)であり、学生の「認知的な」姿勢をアクティブにすることが重要(メールマガジン「Beating」第58号)
- ▶ 学習は、学習者の能動的探索による知識構造体(スキーマ)の組み替えであり、その過程のコミュニケーション行為により、知識が社会的に構成されることを重視

形態・呼称: 課題探求型学習, PBL(Project-, Problem-Based Learning), 学生参加型授業その他

教育手法: アンカード・インストラクション, 相互教授法, ジグソーメソッド, ゴールベースドシナリオ, LTD等

アクティブ・ラーニングが言語化できない②

▶「思考を活性化する」学習形態

- ・実際にやってみて考える。
- ・意見を出し合って考える。
- ・わかりやすく情報をまとめ直す。
- ・応用問題を解く。
- ・振り返る(省察する)。

＝活動を介してより深くわかる

形態・呼称: 課題探求型学習, PBL (Project-, Problem-Based Learning), 学生参加型授業その他

理論・手法: アンカード・インストラクション, 相互教授法, ジグソーメソッド, ゴールベースドシナリオ, LTD等

学習（教育）効果を高める2つの視点

▶ インストラクショナルデザイン

※アクティブ・ラーニングの取り込み

1. 行動主義: 定型行動の正確さ
2. 認知主義: 応用・転移
3. 社会構成主義(状況的学習観): 実践と協同

▶ 学習環境デザイン ※ラーニング・コモンズ

学習者が多種多様な学習資源にアクセスできるように
空間的・社会的デザインを施す。

「行為や認知を誘発する資源」としての環境。



よい学習を導くポイント

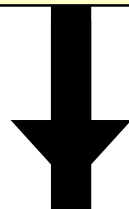
- ▶ 最もよい学習は、学習者が自身のまだあやふやな段階の思考過程を明示化し、学習過程を通して明示化し続けるときに起きる（ヴィゴツキー理論）。
- ▶ 会話や文章によって自分の思考過程を表現し、自分の知識の状態を省察する機会を与えられるときに、よりよく学ぶことができる（省察とメタ認知）。
- ▶ 学習科学にもとづいた教室は、省察を促すようにデザインされている、それらの多くは、生徒に自らの思考過程を明示化しやすくする道具を与えることによって、省察を促進している。

R.K.ソーヤー編. 学習科学ハンドブック. 培風館, 2009

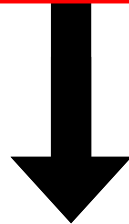


学習環境・空間の議論で忘れがちな事項

学習環境・空間を変える

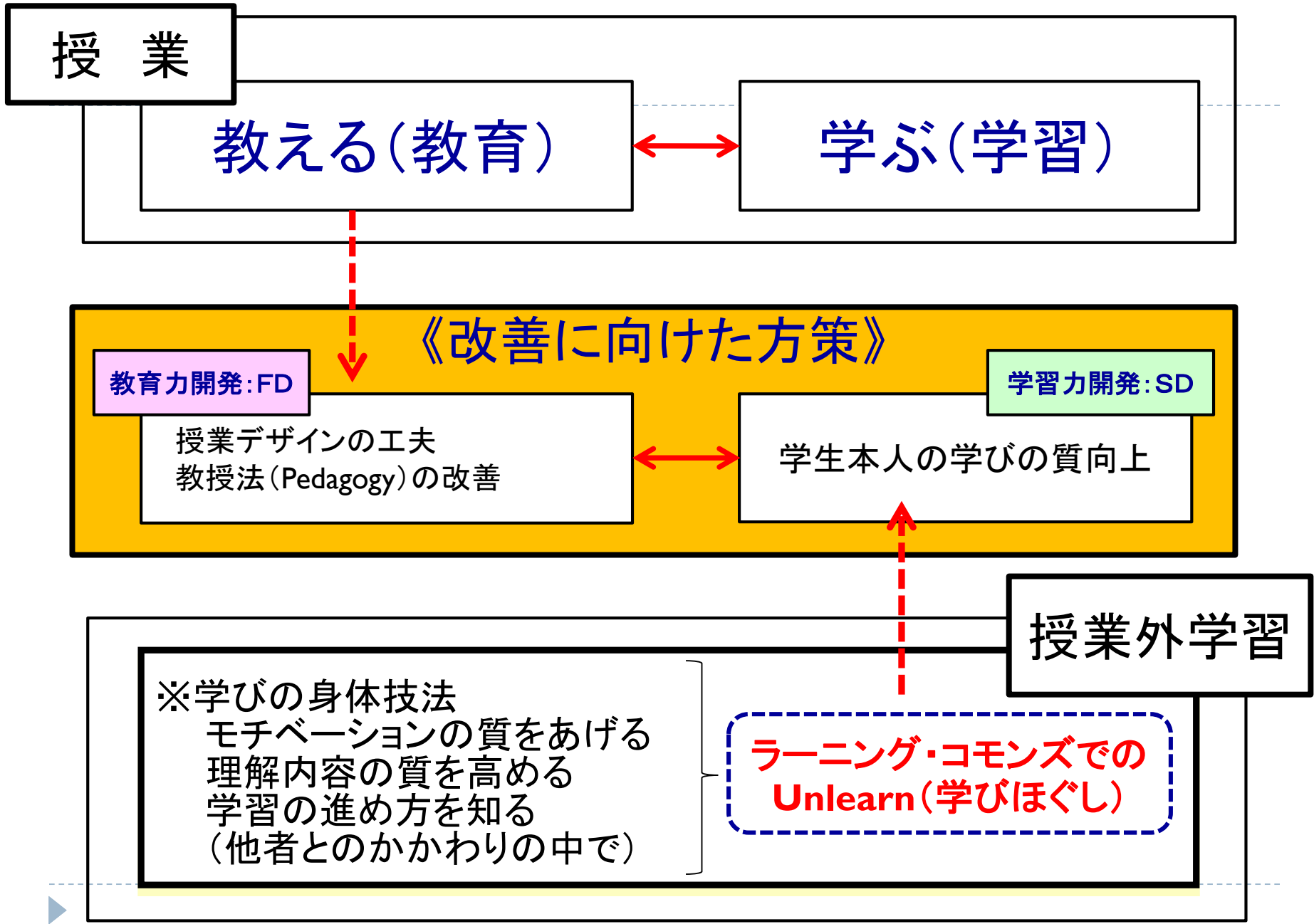


学び方が変わる



学習成果があがる

Ⅱ. アクティブ・ラーニングの潮流の中で



狙いは、学生の「学びの質向上」

もしも・・・

大学の最終的な目的=学生の「学びの質向上」

FDの目的=教員が変わる⇒ 学生の学びの質向上

間接的関与

FDの目的=学生の学びの質向上⇒ 教員が変わる

直接的関与

島根大学・森朋子氏作成スライド「学習研究を基盤とした協働型FD」
(名古屋大学招聘セミナー, 2012.10.17)を参照

大学図書館の情報リテラシー教育の限界

- 教育理論・学習科学が教職協働の共通言語
- 図書館での情報リテラシー教育の限界

=「情報を使って、学習成果(アウトカムズ)を出すプロセス全体を指導・支援するサービス」
になっていない。

アクティブ・ラーニング(協同学習, 実践の文脈)
を取り入れたプログラムの開発が焦点

アクティブ・ラーニングの手法を 情報リテラシー教育に取り込めるか

2000年～2005年頃のALAでの議論
情報リテラシー教育をアクティブラーニングで、
展開できるかどうか。



何が必要なのか？

情報源ではなく、「行為」に焦点

Embedded Librarianに学べ

▶ Embedded Librarian:

図書館を離れ、利用者が活動している場から、利用者と活動をともにしつつ情報サービスを提供している図書館員。ワークショップのような実践的な情報リテラシー教育が実行でき、情報の特徴や信頼性を批判的に評価することを、学生のリサーチプロセスの全領域に関わって指導する。

鎌田均. エンベディッド・ライブラリアン: 図書館サービスモデルの米国における動向. カレントアウェアネス. 2011, no.309, p6-9.

本人の技量こそがすべて

- ▶ 図書館員は自分の技量がすべて
- ▶ 図書館に帰属せずとも、自分の専門性を発揮できることが重要。
- ▶ 図書館とライブラリアンではなく、「ライブラリアンシップの行われる場とライブラリアン」という問い方をする。

吉田右子, 中村百合子. 図書館・メディア・教育:ライブラリアンシップの歴史から見えてくるもの. 同志社大学図書館学年報. 2010, no.36, p.73-121.

- ▶ 「図書館員に一番目指していただきたいのは、図書館という場所がなくなっても生きていける人。図書館という場所がなくても、誰かの中に入っていって、「この情報を使って、こうやれば、こうできるんだ」と展開できる、図書館という建物がなくても通用する図書館員が欲しい」(井上)

長尾真, 中山正樹, 井上真琴, 佐藤翔, シンポジウム「見たことのない図書館」を考える. 同志社大学図書館学年報. 2015, no.40, p.51-64.

◎ **科学技術・学術審議会 学術分科会**
研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会

「大学図書館の整備について」(審議のまとめ)
ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー

2010年12月3日

1. 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け
 - (3) 大学図書館に求められる機能・役割
 - ① 学習支援及び教育活動への直接の関与
2. 大学図書館職員の育成・確保
 - (2) 大学図書館員に求められる資質・能力等
 - ① 大学図書館職員としての専門性
 - ② 学習支援における専門性
 - ③ 教育への関与における専門性
 - ④ 研究支援における専門性

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm
(参照2014-06-19)

教育開発・実践センター
Fder／Instructional Designer

図書館
図書館員

高等教育論の知見
教育方法論の知見

図書館情報学の知見

**図書館が提供する
情報資源**

教育理論

学習科学

教育工学

教授法

ラーニング・コモンズ

情報リテラシー教育

分類

目録

独自のスキル

Team Teachingによるコラボ体制

情報の有効活用
学習成果の引出し方が上手

通=ロジスティクスの
論理ばかりでは、
情報リテラシー教育は無理



押さえておくべき「答申」類など

- ▶ 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会. “学修環境充実のための学術情報基盤の整備について(審議のまとめ)”. 文部科学省. 2013-08.(参照 2014-11-19)
- ▶ 国立大学図書館協会 教育学習支援検討特別委員会. “高等教育のための情報リテラシー基準(ドラフト2.3)”. 国立大学図書館協会. 2014-03.(参照 2014-11-19)

－ 中央教育審議会 －

- ▶ 中央教育審議会. “学士課程教育の構築に向けて(答申)”. 文部科学省. 2008-12-24.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm
(参照 2014-11-19)
- ▶ 中央教育審議会大学分科会大学教育部会. “新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け,主体的に考える力を育成する大学へ(答申)”. 文部科学省. 2012-08-08.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm
(参照 2014-11-19)

3. 学習の基礎スキル習得支援

同志社大学
大学生
対象

受講
無料

勉強に
困ったら

成績を
あげたい

大学の学びに役立つ / 2015春 良心館ラーニング・commons

アカデミックスキルセミナー

90min

No.	セミナー名	概要	開催日時	
			今出川	京田辺
1	学術文献の読み方	自らの課題、テーマを念頭に、どう文献を読み進めればよいのかをミニレクチャーと実習を通して学ぶ。	5/29(金)4時 7/14(火)4時	6/12(金)4時
2	アイデアの拡張法	マインドマップと検索エンジンを使い、レポート・論文作成に役立つアイデア出しの方法を学ぶ。	5/27(水)4時 7/6(月)4時	5/8(金)4時
3	伝わる文章の書き方	どうすれば伝わる文章が書けるか、ミニレクチャーと実習を通して学ぶ。	4/13(月)4時 5/19(火)4時	7/24(金)3時
4	プレゼンの構成法	伝わるプレゼンの作り方・話し方等、事例を元にして学ぶ。	4/23(水)3時 6/22(月)3時	7/10(金)3時
5	グループでのアイデア出し	グループで多くのアイデアを出す方法、またそれらの絞り方についてレクチャーと実習を通して学ぶ。(受講者が3名以上必要です。)	4/22(火)4時 5/15(金)4時	-
6	ソーシャルメディアの学術的 利用法	SNSなどのツールを用いてウェブ上の情報を半自動的に収集する方法を学ぶ。	6/18(木)3時 7/8(水)3時	6/12(金)3時
7	レポートの構成の 立て方	テーマ設定のコツから構成の立て方など、レポート作成の基本を学ぶ。	6/24(水)3時 7/16(木)3時	5/8(金)3時
8	ノートの取り方	聴きながらとる、読みながらとる、高校までとは違う、大学でのノートの取り方、まとめ方のコツを学ぶ。	5/22(金)4時 6/16(火)4時	4/17(金)4時
9	ポスターの作り方	身近なツールを利用し、ポスター発表等が必要となるコツや技をサンプルを交えて学ぶ。	6/8(月)4時 7/27(月)3時	7/10(金)4時
10	レジュメの作り方	授業やゼミの発表に欠かせないレジュメ、レジュメ作成のポイント、ミニレクチャーと実習を通して学ぶ。	5/7(水)4時 6/10(水)4時	7/24(金)4時
11	引用の方法	なぜ引用するのか、どのような引用形式があるのか、「コピペ」と言われないレポートのルールを学ぶ。	6/29(月)3時 7/20(月)3時	4/17(金)3時
12	ラーニング・commons活用法	ラーニング・commonsをフィールドとして、参加者の目標で活用法を考えるワークショップを行う。	5/21(木)3時 7/22(水)3時	-

30min

No.	セミナー名	概要	開催日時
			今出川
I	ノートの取り方	聴きながらとる、読みながらとる、高校までとは違う、大学でのノートの取り方、まとめ方のコツを学ぶ。	4/3(金)お昼休み(12:30-13:00)
II	伝わる文章の書き方	どうすれば伝わる文章が書けるか、ミニレクチャーと実習を通して学ぶ。	6/2(火)お昼休み(12:30-13:00)
III	プレゼンの構成法	伝わるプレゼンの作り方・話し方等、事例を元にして学ぶ。	5/13(水)お昼休み(12:30-13:00)
IV	レポートの構成の 立て方	テーマ設定のコツから構成の立て方など、レポート作成の基本を学ぶ。	6/4(木)お昼休み(12:30-13:00)
V	引用の方法	なぜ引用するのか、どのような引用形式があるのか、「コピペ」と言われないレポートのルールを学ぶ。	7/1(水)お昼休み(12:30-13:00)
VI	図・表の見方・作り方	グラフの意味や適切な使い方について説明する。図表内の数値の見方、作図・作表の方法を学ぶ。	5/11(月)お昼休み(12:30-13:00)
VI	メールの書き方	教員に送る、授業前にアポイントメントをとる。その際、失礼にならない電子メールの書き方を学ぶ。	4/24(金)お昼休み(12:30-13:00)

※開催日の3日前までに予約手続きが必要です。

受講を希望される方は、良心館ラーニング・commonswebページ「イベント、ワークショップ、セミナー」
<http://nyoshinkan-ic.doshisha.ac.jp/event> (※右記QRコード) のページから、各セミナーの参加申し込みページへ飛び、お申し込みください。

2015年春季 アカデミックスキルセミナー HP申込者と当日参加者一覧

No	開催日	キャンパス	セミナー名	申込者 (専用HP)	当日参加者
1	2015年4月3日	今出川	ノートの取り方(30分コース)	10	8
2	2015年4月13日	今出川	伝わる文章の書き方	5	5
3	2015年4月17日	京田辺	ノートの取り方	10	9
4	2015年4月17日	京田辺	引用の方法	10	7
5	2015年4月22日	今出川	グループでのアイデア出し	2	3
6	2015年4月23日	今出川	プレゼンの構成法	11	9
7	2015年4月24日	今出川	メールの書き方(30分コース)	46	41
8	2015年5月7日	今出川	レジュメの作り方	13	14
9	2015年5月8日	京田辺	レポートの構成の立て方	4	3
10	2015年5月8日	京田辺	アイデアの拡張法	5	4
11	2015年5月11日	今出川	図・表の見方・作り方(30分コース)	13	15
12	2015年5月13日	今出川	プレゼンの構成法(30分コース)	32	21
13	2015年5月15日	今出川	グループでのアイデア出し	10	9
14	2015年5月19日	今出川	伝わる文章の書き方	24	21
15	2015年5月21日	今出川	ラーニング・commons活用法	11	8
16	2015年5月22日	今出川	ノートの取り方	32	28
17	2015年5月27日	今出川	アイデアの拡張法	7	5
18	2015年5月29日	今出川	学術文献の読み方	31	28
19	2015年6月2日	今出川	伝わる文章の書き方(30分コース)	31	21
20	2015年6月4日	今出川	レポートの構成の立て方(30分コース)	47	29
21	2015年6月8日	今出川	ポスターの作り方	27	15
22	2015年6月10日	今出川	レジュメの作り方	24	
23	2015年6月12日	京田辺	ソーシャルメディアの学術的利用法	3	
24	2015年6月12日	京田辺	学術文献の読み方	4	
25	2015年6月16日	今出川	ノートの取り方	32	
26	2015年6月18日	今出川	ソーシャルメディアの学術的利用法	27	
27	2015年6月22日	今出川	プレゼンの構成法	30	
28	2015年6月24日	今出川	レポートの構成の立て方	28	
29	2015年6月29日	今出川	引用の方法	29	
30	2015年7月1日	今出川	引用の方法(30分コース)	29	
31	2015年7月6日	今出川	アイデアの拡張法	29	
32	2015年7月8日	今出川	ソーシャルメディアの学術的利用法	25	
33	2015年7月10日	京田辺	プレゼンの構成法	1	
34	2015年7月10日	京田辺	ポスターの作り方	1	
35	2015年7月14日	今出川	学術文献の読み方	27	
36	2015年7月16日	今出川	レポートの構成の立て方	29	
37	2015年7月20日	今出川	引用の方法	26	
38	2015年7月22日	今出川	ラーニング・commons活用法	28	
39	2015年7月24日	京田辺	伝わる文章の書き方	1	
40	2015年7月24日	京田辺	レジュメの作り方	2	
41	2015年7月27日	今出川	ポスターの作り方	3	
2015年6月10日 現在				合計	759 303

本日のまとめ

1. 「人はどう学ぶのか」＝学習理論に立脚した
学習環境・学習支援プログラムを企画する。

※学習科学・教育工学との接点 《連携の共通言語》

2. 情報源サービスから「情報を使った学びの
プロセスを支援する」サービスへの転換を
理解する。

《アクティブ・ラーニング型情報リテラシー教育》

ご参考までに

学習科学・学習理論を理解するために

連載 5分でわかる学習理論講座 (全11回). Beating(メールマガジン). 2005, no.11 - 2006, no.22.

<http://www.beatiii.jp/beating/index.html> (参照 2014-06-19)

※連載内で紹介されている文献すべて

市川伸一. 勉強法の科学 : 心理学から学習を探る. 岩波書店, 2013. xi, 110p.

今井むつみ, 野島久雄. 人が学ぶということ : 認知学習論からの視点. 北樹出版, 2003, 247p.

R.K.ソーヤー編. 学習科学ハンドブック. 培風館, 2009. 490p.



ご参考までに

メールマガジン Beating

特集「5分でわかる学習理論講座」

2005年度 Beating特集「5分でわかる学習理論講座」

最終回：総集編・メイキングオブ「5分でわかる学習理論講座」	2006年3月28日発行	第22号
第10回：「体験＝経験」じゃない！反省して初めて「経験」なんだ！～「問題解決学習」	2006年2月28日発行	第21号
第9回：ゴールを目指して突っ走れ！知識は自然とついてくる！～「ゴールベースドシナリオ」	2006年1月31日発行	第20号
第8回：あなたの心をひきとめる。それは「アンカードインストラクション」。	2005年12月27日発行	第19号
第7回：知識が集まる。それはパズルのように。～「ジグソーメソッド」	2005年11月25日発行	第18号
第6回：他人との学び合いを通して、自立した学習者を育成する～「相互教授法」	2005年10月27日発行	第17号
第5回：実践を通じた学習のなかで知識を獲得する～「認知的徒弟制」	2005年9月22日発行	第16号
第4回：学びあいを行う集団～「実践共同体」	2005年8月25日発行	第15号
第3回：学習を「個人の営み」ではなく、「社会的な営み」として捉え直す～「社会的構成主義」	2005年7月28日発行	第14号
第2回：学習理論領域における学習観の大きな転換点を捉える！	2005年6月30日発行	第13号
第1回：複雑で相互依存的な問題について、深い理解を達成する教材を作るには？	2005年5月30日発行	第12号
2005年度beating特集 "5分でわかる学習理論講座" 開講！	2005年4月27日発行	第11号

